

TOMODACHI ビヨントゥモロー グローバル・リーダーシップ・アカデミー2015 報告書



2015年3月6日~3月8日

開催場所 : バンクオブアメリカ・メリルリンチ 東京オフィス (東京・中央区)
国立オリンピック記念青少年総合センター (東京・渋谷区)
東京アメリカンクラブ (東京・港区)
主催・運営 : 一般財団法人 教育支援グローバル基金
共催 : 米日カウンシルージャパン TOMODACHI イニシアチブ
支援企業 : バンクオブアメリカ・メリルリンチ

TOMO
DACHI

Bank of America
Merrill Lynch

BEYOND
Tomorrow



「ビヨンドトゥモロー」は、東日本大震災により被災した若者のリーダーシップ教育支援事業です。

TOMODACHI ビヨンドトゥモロー グローバル・リーダーシップ・アカデミー 2015 概要



主催 一般財団法人 教育支援グローバル基金

協力 バンクオブアメリカ・メリルリンチ

日時 2015年3月6日(金)～8日(日)

趣旨 一般財団法人教育支援グローバル基金は、2015年3月に、米日カウンシル—ジャパン TOMODACHI イニシアチブとの共催の下、TOMODACHI ビヨンドトゥモローグローバル・リーダーシップ・アカデミー 2015を開催しました。TOMODACHI イニシアチブの各プログラムで渡米した高校生・大学生の中から選考された70名が、今後、国際社会で自分たちが果たすべき役割について考える機会となりました。参加学生たちは、3日間の対話・ディスカッション形式のプログラムを通して、自らの米国での学びや経験を基に、様々な領域で活躍するリーダーたちによるアドバイスを踏まえ、国連ミレニアム開発目標達成目標年である2015年以降、世界の貧困問題を解決するために何を行うべきかのアクションプランをまとめました。参加学生たちは、作成したアクションプランを、最終日に、政治・行政・ビジネス・メディア・NGOなど各方面のリーダーたちの前で発表、外務省国際協力局審議官に提言として手渡されました。

TOMODACHI イニシアチブとは



TOMODACHI イニシアチブとは、東日本大震災からの日本の復興支援から生まれ、教育、文化交流、指導者育成といったプログラムを通して、日米の次世代リーダーに投資する官民パートナーシップです。
(TOMODACHI イニシアチブについて <http://usjapantomodachi.org/ja/>)

ビヨンドトゥモローとは



「ビヨンドトゥモロー」は、一般財団法人教育支援グローバル基金により運営され、政治・行政・企業・NGO・メディアなど多方面にて活躍するリーダーたちとの対話を通じ、東北被災地の若者がグローバルに活躍するリーダーへと成長するための教育事業です。
(ビヨンドトゥモローについて <http://www.beyond-tomorrow.org/>)

目次

プログラム概要	
概要 -----	5
参加学生紹介 -----	7
スケジュール -----	9
プログラムハイライト	
課題設定 -----	11
グローバルな社会変革とは？ -----	12
キャリアナイト -----	13
専門家インタビュー -----	15
提言作成 -----	17
リフレクション ～ビヨンドトゥモローナイト -----	18
閉会式／提言発表会 -----	19
学生代表スピーチ -----	22
クロージングセッション -----	23
メンター紹介 -----	24
学生の声 -----	27
協力団体 -----	28
ビヨンドトゥモローとは -----	29

プログラム概要



参加高校生
— TOMODACHI 世代 —



これまで TOMODACHI イニシアチブの下に開催された各プログラムで渡米した東北出身の高校生で、将来、グローバルに活躍するリーダーとなることを志す 61 名。(書類選考により決定)



**TOMODACHI ビ
グローバル・リーダーク**

2泊3日に渡り、参加学生たち問題について議論しました。自各分野で活躍する専門家の皆の貧困問題を解決するために、ランを策定しました。

アカデミ

- ☆ 参加者たちが、米国での体験をそしてその体験や学びを基に国きるか、何をしたいかを
- ☆ 参加者たちが、幅広い領域で活対話を通し、将来のビジョンをかけとする。
- ☆ 参加者たちが、東北を代表してを持つ TOMODACHI 世代とし意見を交わすことで、互いに切

ヨンドトゥモロー ップ・アカデミー 2015

は地球規模の課題である、貧困
らの震災体験、渡米体験、そし
さんのお話などを踏まえ、世界
自分たちができるアクションプ

一の目的

通してどんなことを学んだか、
際社会の中で自分たちに何がで
考える。

躍するリーダーや先輩たちとの
具体的に描くことができるきっ

アメリカに行ったという共通項
て、志を共にする仲間と議論し
磋琢磨する機会を持つ。



メンター

本プログラムの支援企業であるバンクオブアメ
リカ・メリルリンチの社員の方々に加え、様々
な領域で活躍している社会人の方々に、ボラン
ティアとして各チームに参加していただきました。
プレゼンテーションの準備や、社会人として
のキャリア形成など、様々な面で学生たちに
アドバイスをいただきました。

大学生チームリーダー

これまで TOMODACHI イニシアチブの下で渡
米し、グローバル・リーダーシップ・アカデミー
に参加した東北出身の大学生9名。リーダーと
して、高校生の議論のリード・サポートを担い
ました。(書類選考により決定)



プログラム概要

参加学生紹介

東北出身で、これまで TOMODACHI イニシアチブの下に渡米した学生の中から、将来、グローバルに活躍するリーダーとなることを志す 70 名の高校生・大学生が選出されました。米国に滞在した体験を、今後の活動に活かし、世界で活躍できる人材になるという熱意と志を持つ学生たちが参加しました。

参加学生一覧 (1/2)

氏名	学校名	学年	参加P	氏名	学校名	学年	参加P
岩手県							
井上 孝一朗	岩手県立盛岡北高等学校	高2	SO	千田 陽菜	岩手県立水沢高等学校	高2	CO
及川 美咲	岩手県立大船渡高等学校	高2	CO	千葉 美乃里	岩手県立大船渡高等学校	高3	CO
太田 古都	岩手県立不来方高等学校	高3	CO	似鳥 熙	岩手県立盛岡第一高等学校	高3	CO
逢坂 紗らら	岩手県立盛岡第一高等学校	高1	CO	野村 涼	岩手県立金ヶ崎高等学校	高2	CO
小田 大夢	岩手県立盛岡第一高等学校	高2	CO	浜登 美海	岩手県立釜石高等学校	高2	SO
佐々木 真琴	岩手県立宮古高等学校	高3	SO	堀合 大樹	岩手県立山田高等学校	高2	SO
瀬戸 美南	岩手県立盛岡北高等学校	高2	CO	毛利 穂乃香	岩手県立大船渡高等学校	高3	CO
高橋 朱憂	岩手県立大船渡高等学校	高2	CO	山崎 成歩	岩手県立盛岡第四高等学校	高3	SO
宮城県							
安達 亜湖	宮城県白石高等学校	高3	CO	小齋 祥平	宮城県農業高等学校	高3	SO
阿部 成子	宮城県佐沼高等学校	高3	MU	小菅 希	宮城県塩釜高等学校	高2	HO
伊藤 朱里	宮城県古川黎明高等学校	高1	CO	児玉 知樹	仙台育英学園高等学校	高2	CO
岩佐 明里	宮城県柴田農林高等学校	高3	SO	小林 梨乃	常盤木学園高等学校	高3	DA
岩渕 由佳	仙台白百合学園高等学校	高3	DA	小松 茉由	仙台白百合学園高等学校	高3	DA
大内 花	宮城県宮城第一高等学校	高3	BI	佐々木 嘉葵	宮城県立気仙沼高等学校	高1	CO
太田 美奈	仙台高等専門学校	高2	SO	澤田 万尋	宮城県仙台第二高等学校	高3	CO
尾形 咲季	宮城県仙台第二高等学校	高3	CO	鈴木 菜々	宮城県立気仙沼高等学校	高2	CO
小原 公太郎	東北学院榴ヶ岡高等学校	高3	DA	鈴木 麻莉子	常盤木学園高等学校	高1	SO
加藤 克哉	宮城県気仙沼高等学校	高3	CO	制野 涼子	聖ウルスラ学院英智高等学校	高3	CO
加藤 励	宮城県仙台二華高等学校	高1	CO	千葉 梨緒里	宮城県仙台二華高等学校	高2	MU
狩野 百香	東北学院榴ヶ岡高等学校	高3	SO	福田 栞	宮城県多賀城高等学校	高3	CO
鎌田 せいな	宮城県石巻北高等学校	高2	CO	藤沢 苑風	宮城県仙台二華高等学校	高3	SO
亀谷 真美	宮城県気仙沼高等学校	高3	SO	松崎 巧	宮城県仙台第三高等学校	高2	HO
川田 なつみ	宮城県仙台東高等学校	高3	SO	渡辺 千夏	宮城県宮城第一高等学校	高2	HO
工藤 梨央	宮城県宮城第一高等学校	高2	SO	渡部 八雲	宮城県宮城第一高等学校	高2	HO

参加学生一覧 (2/2)

氏名	学校名	学年	参加P	氏名	学校名	学年	参加P
福島県							
荒 郁弥	福島県立福島高等学校	高2	CO	櫻井 翔太	福島県立平工業高等学校	高3	CO
石光 真理	福島県立会津学鳳高等学校	高1	MU	高木 栄理子	福島県立磐城高等学校	高3	CO
伊藤 恵	福島県立福島高等学校	高1	CO	高橋 葵	福島県立いわき光洋高等学校	高2	CO
遠藤 拓実	磐城緑蔭高等学校	高2	SO	蛭川 遼	福島県立郡山高等学校	高3	SO
大田原 美和	福島県立磐城桜が丘高等学校	高2	SO	根本 早絵	福島県立磐城高等学校	高3	MU
相樂 瑞穂	福島県立清陵情報高等学校	高3	CO	山本 杏奈	福島県立原町高等学校	高2	CO
相樂 美結	福島県立安積黎明高等学校	高1	CO				
チームリーダー							
小野寺 栄	早稲田大学	大3	BT	丹野 利砂	自治医科大学	大1	CO
葉澤 詩穂	中央大学	大1	CO	廣野 秀幸	山形大学	大1	SO
木村 拓哉	東京大学	大2	BT	三浦 朝香	学習院大学	大1	CO
黒澤 永	獨協大学	大1	AF	梁川 菜美	昭和女子大学	大2	CO
佐藤 迅	東京法律専門学校 仙台校	専1	BT				

参加プログラム (参加P)

- CO: TOMODACHI サマーコカ・コーラホームステイ研修プログラム
 - SO: TOMODACHI サマーソフトバンク・リーダーシップ・プログラム
 - AF: TOMODACHI サマー英語研修プログラム
 - BI: TOMODACHI 2013 春休みホームステイプログラム
 - SA: TOMODACHI サンディエゴプログラム
 - MU: TOMODACHI MUFG 国際交流プログラム
 - DA: ダラス・仙台 ヤング アンバサダーズ プログラム (トヨタ自動車、三菱商事、日立製作所)
 - BT: TOMODACHI サマー ビヨンドトゥモロー米国プログラム
 - HO: TOMODACHI Honda 文化交流プログラム
- 避難中、及び他県、海外に進学した学生を含みます。



プログラム概要

スケジュール

3月6日 (金)

13:00 - 13:30	オリエンテーション・アイスブレーキング
13:30 - 15:00	ディスカッション 「アメリカで何を学んだか」 「世界の何が問題か」
15:15 - 16:45	オープニングセッション 井上 英之 慶應義塾大学 特別招聘准教授 イノラボ・インターナショナル 共同代表
17:00 - 18:15	コミュニケーション・ワークショップ
19:00 - 21:00	キャリアナイト

3月7日 (土)

10:00 - 10:30	メンター紹介・自己紹介
11:00 - 11:30	課題発表&フィードバック
13:00 - 14:30	インタビュー・セッション ①人権 土井 香苗 ヒューマンライツウオッチ 日本代表 ②医療 スリングスピー B.T. グローバルヘルス技術振興基金CEO ③教育 松田 悠介 Teach For Japan代表理事
14:30 - 16:00	プレゼンテーション準備
16:00 - 16:30	中間発表
16:30 - 17:30	最終プレゼンテーション準備
20:00 - 22:00	リフレクション

3月8日 (日)

8:30 - 10:00	最終プレゼンテーション練習
11:30 - 13:30	ランチョン・閉会式
13:30 - 14:00	クロージングセッション「リーダーとの対話」
15:30頃	解散



**プログラムハイライト
「課題設定」**

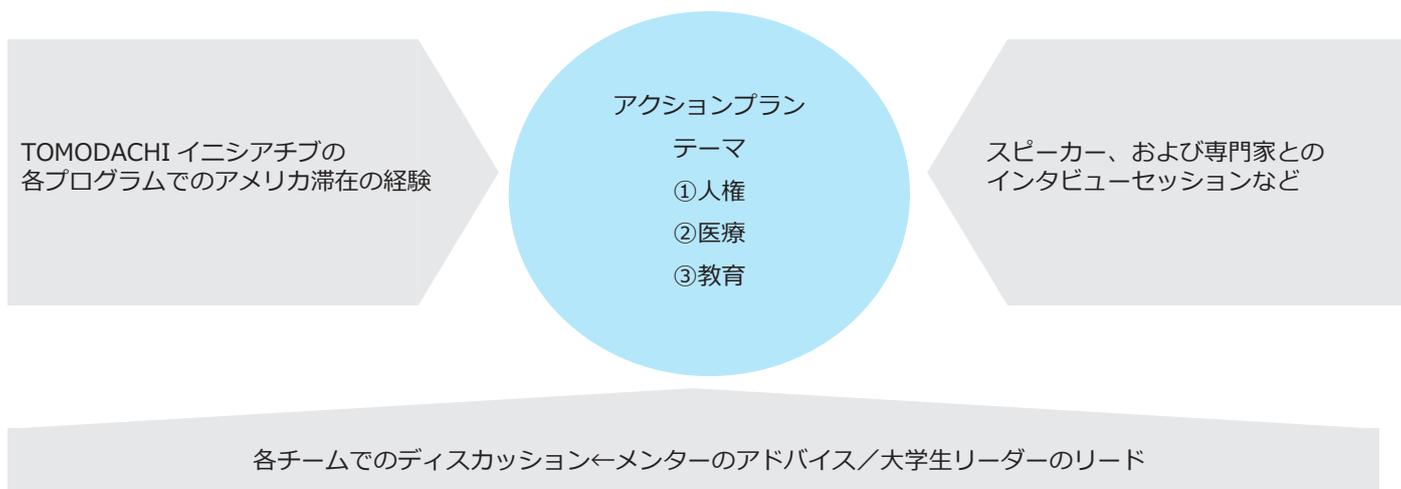
世界の貧困問題について考える

今回の、TOMODACHI ビヨンドトゥモローグローバル・リーダーシップ・アカデミー 2015 では、世界の貧困問題について考えました。2015 年は、2000 年に設定された「ミレニアム開発目標」の達成期限です。しかし、世界には未だ貧困問題があります。それに対して、何ができるのか？を仲間たちと議論しました。

課題設定

「世界の貧困問題のために、自分たちにできること」

2015 年は、国連が 2000 年の国連ミレニアム・サミットで採択した国連ミレニアム宣言を基にまとめた、ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals:MDGs) の達成目標年です。達成目標年にあたり、未だに解決されていない貧困問題は何なのか？今後、その問題を解決するには何が必要なのか？を学び、考え、議論し、2015 年以降、次の 15 年間の開発目標「MDGs 2030」とも言える、新しいアクションプランを策定します。チームごとに策定したアクションプランは閉会式で発表され、集まったゲストによる投票が行われ、1 位の班は外務省国際協力局審議官に提言を届けます。



ミレニアム開発目標：

2000 年 9 月、ニューヨークの国連本部で開催された国連ミレニアム・サミットにおいて、21 世紀の国際社会の目標として、より安全で豊かな世界づくりへの協力を約束する「国連ミレニアム宣言」を採択しました。この宣言と 1990 年代に開催された主要な国際会議やサミットでの開発目標をまとめたものが「ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)」です。MDGs は国際社会の支援を必要とする課題に対して 2015 年までに達成するという期限付きの 8 つの目標、21 のターゲット、60 の指標を掲げています。

8 つの目標は以下です。

- ① 極度の貧困と飢餓の撲滅
- ② 初等教育の完全普及の達成
- ③ ジェンダー平等推進と女性の地位向上
- ④ 乳幼児死亡率の削減
- ⑤ 妊産婦の健康の改善
- ⑥ HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止
- ⑦ 環境の持続可能性確保
- ⑧ 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

事前課題：

今回のアカデミーでは、参加者のアメリカでの体験を基に世界の問題について考え発することを目的とし、それにあたり、以下の事前課題が参加学生に課されました。

- ① **【振り返り】アメリカでの変化**
TOMODACHI 世代の一員となって (TOMODACHI プログラムに参加し渡米して) どのような変化があったか。
- ② **【ディスカッション準備】**
グローバルアジェンダ (地球規模課題) について考える。
a. 「ミレニアム開発目標—ポスト 2015」世界の貧困問題解決のための取り組みはどのようなものか。
b. 人権・医療・教育の各領域において、何が問題になっているのか。
- ③ **【英語での発信】**
将来、何をやりたいか。アメリカでの TOMODACHI としての経験が、どのように活かしているか。
- ④ **【リーダーとの対話にむけて】** リーダーに訊いてみたいこと。

**プログラムハイライト
「グローバルな社会変革
とは？」**

オープニングセッション

「グローバルな社会変革とは？～変化を生み出すために、いま、大切なことって？」

プログラム1日目に行われたオープニングセッションで、スピーカーとして、井上 英之・慶應義塾大学 特別招聘准教授をお招きし、「グローバルな社会変革とは？～変化を生み出すために、今、大切なことって？」というタイトルでお話をお聞きました。世界や社会を変えていくためには、何が必要なのか？また、どのような心構えが大切なのか？今回のアカデミーの課題、「貧困がない世界にするには、何をすれば良いのか？」を考える上で、大きなヒントを与えてくれました。また、今回のテーマだけに限らない、今後の参加学生の人生にとっても貴重なセッションとなりました。



スピーカー

井上英之
慶應義塾大学 特別招聘准教授
イノラボ・インターナショナル 共同代表

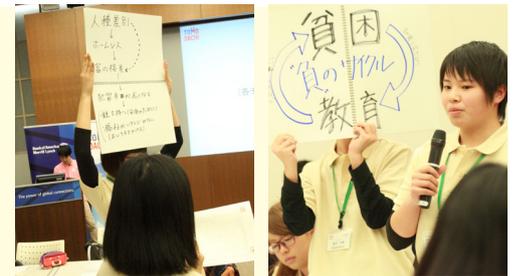
2001年よりNPO法人ETIC.にて、日本初のソーシャルベンチャー向けプランコンテスト「STYLE」を開催するなど、社会起業家の育成・輩出と市場の創出に取り組む。03年、ソーシャルベンチャー・パートナーズ(SVP)東京を設立。05年より、慶応大学SFCにて「社会起業論」などの、実務と理論を合わせた授業群を開発。09年、世界経済フォーラム「Young Global Leader」に選出。現在、慶應義塾大学特別招聘准教授。12～14年、米国スタンフォード大学、クレアモント大学院大学に客員研究員として滞在。

“「私」という存在と「仕事」、そして「世の中」はつながっているものです。それをまずは分かってほしい。そう考えると、一人一人の存在は、意外と大きいものかもしれません。だから、一人一人の経験やストーリーを大切にしたいです。”

“『Theory of Change』- 何をすると人の気持ちが変わられるのか？それを理解し、知ることが、社会や世の中を変える何かをしようとするときに、とても大切なことになると思います。そして、インプットからアウトプット、さらにアウトカム、結果の先にまで物事のつながりがあるということを理解することが必要です。今、感じていること、考えていること、そしてあなたたちの経験したストーリーを通じて、世の中を変えることを考えていって欲しいと思います。”

アメリカで経験した社会問題の共有：

参加学生は、アクションプラン策定に向け、まずは自分たちが経験した、アメリカでの生活から見た、アメリカが抱える社会問題について話し合いました。大国と言われるアメリカにおいても様々な社会問題が存在し、人々の間には苦しみがあることが、見えてきました。それらを基に、世界に目を向け、地球規模で存在している様々な問題を理解し、解決するためのアクションプランを作成する議論を始めました。



共有されたアメリカで経験した社会問題に対する意見：

“アメリカが抱えている多くの社会問題は、国民一人一人に対し、『自己責任』という考え方が根強いことが理由となっていることが大きいと思う。例えば自分の身は自分で守るという考え方が、銃社会の問題の元であり、肥満の人が多いという健康問題も、健康管理は国民一人一人の責任に委ねられているから生まれるのではないだろうか？”

“アメリカで経験したり目にしたりした社会問題は、その多くが複雑に関係しあっていると思う。未だにある人種差別の問題が、経済格差の問題を生み、さらに貧困問題へとつながっていると思う。さらにそこから銃の問題とも絡みあって、治安が悪くなっていくなど、多くの社会問題が複雑に関係し合い、悪循環になっているように感じられる。”

**プログラムハイライト
「キャリアナイト」**

参加学生たちは、プログラム一日目の夜、米日財団スコット M. ジョンソンフェローの方々、対話する機会をいただきました。様々な分野でリーダーとして活躍されているフェローたちとのディナーセッションを通し、高校時代にどんなことを考えていたか、その後のキャリアについてなど、どう生きるべきかについての示唆をいただき、視野を広げる機会となりました。



伊藤守康 明治神宮国際神道文化研究所 権禰宜

東京生まれ、神戸育ち。平成5年に外務省入省後、カナダ、パキスタンに赴任。カナダ赴任中に家族が阪神淡路大震災に被災。海外で広報文化活動に従事する中で、日本について考える機会を得る。平成15年より明治神宮に奉職。神職として日本の精神文化を伝えるべく活動。海外の参拝者からの質問への受け答えを通し、「日本」を言葉にして、特に異文化環境にある人々にそれを伝えることの難しさを実感し、日々勉強中。



井原慶子 カーレーサー

モデルからレーサーに転身し16年間で世界70か国をレース転戦。2013年には女性ドライバーとして世界最高位を獲得。2014年ルマン24時間レースをアジア人女性初で完走し、シリーズ戦での総合優勝など世界女性初で WEC 世界耐久選手権の表彰台に上った。レースの傍ら、地元で英会話スクールを開講し教育活動にも従事する。慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科特別招聘准教授。FIA 国際自動車連盟アジア代表委員



大橋英雄 三菱商事インフラ金融事業部 部長代理

1997年 東京大学経済学部卒業 1997年 - 現在 三菱商事株式会社勤務 2008年 ペンシルバニア大学ウォートンスクール卒業 (MBA) 2008年、09年 日米リーダーシッププログラム参加 (現在日本側代表)



貝原健太郎 外務省アジア大洋州局 地域政策課首席事務官

高校2年生のときに、米国イリノイ州に交換留学。大学では日米学生会議。社会人になってからは、日米リーダーシップ・プログラムに参加しました。昨年夏まで在米国日本大使館で勤務。現在は、アジア地域全般に関する外交政策の立案・執行に携わっています。先日は、息子と二人で、スーパー・ボウル観戦 (もちろん録画ですが) で盛り上がりました。



片山健太郎 財務省主計局主査

東京大学経済学部卒業、同修士課程修了。英ウォリック大学博士課程修了 (経済学博士)。2001年財務省入省、大臣官房 (人事・法令審査・マクロ政策の企画)、主税局 (税制改革)、IMF (国際通貨基金) 勤務等を経て、現在は主計局で文科省予算を担当。この間、米ハーバード大学ケネディスクールフェロー、米ジョンズ・ホプキンス大学客員研究員、米戦略国際問題研究所 (CSIS) フェロー等を歴任。1976年東京生まれ。



桑島浩彰 青山社中株式会社共同代表 CFO

東京大学経済学部卒業。ハーバード大学経営学修士 (MBA) および行政学修士 (MPA)。大学卒業後、三菱商事株式会社、ハーバード大学大学院留学を経てドリームインキュベータ (日系戦略系コンサルティングファーム) に入社。経営コンサルタントとして戦略立案及び実行支援を行った後、CFOとして青山社中株式会社に参画。2014年アイゼンハワー・フェロー日本代表。グロービス経営大学院講師兼任 (MBAプログラム)。



**中山麻紀子 株式会社チアリング
インターナショナル
代表取締役**

チアリングスクール創設者／校長。2002年単身で渡米、NFL ワシントンレッドスキズチアリーダーズオーディションに合格。同時にジュニアチアインストラクターとして活動。慰問旅行として、イタリア、コソボ、グアタナモベイなど他10カ国以上を回る。帰国後はプロ野球などのディレクターを経て、現在、チアリングスクールを経営、インターナショナルスクールを含め20校以上展開。元気や笑顔を広めるため全力で活動中。



**福原正大 株式会社 igsZ
代表取締役社長 CEO
一橋大学大学院特任教授**

起業した会社、Z会との合併会社、大学で、グローバルリーダー育成に関わっています。



**堀憲明 三沢市役所政策財政部
国際交流課課長補佐**

北海道大学卒業後、青森県庁入庁。米軍三沢基地にてオクラホマ大学行政学修士課程修了。2004-2005年 USJLP への参加を機に、地元三沢市で日米友好関係の発展に貢献したいとの思いから、2006年三沢市役所入庁。基地渉外課などを経て2014年から国際交流課勤務。現在米国姉妹都市との交流事業を担当。2011年東日本大震災では、FM局の呼びかけを通じて寄せられたシアトル市民からの支援物資受入に携わる。



**八木研 ロシュ・ダイアグノスティクス
株式会社営業部門博士**

生命科学の研究者としての経験を生かし、基礎研究から世の中の役に立つ製品を1つでも多く生み出し、地球環境を守りつつ、日本を含むアジアや諸外国の発展に貢献したいと思っています。ロシュ・ダイアグノスティクスでは、製薬・診断薬分野で必要とされる原料の提供や、新技術を導入する際の技術を提案しています。



**山口孝太 木村・多久島・山口法律事務所
弁護士**

1999年東京大学法学部卒、2008年コロンビア大学ロースクール卒(LL.M.)。2000年弁護士登録、2009年ニューヨーク州弁護士。長島・大野・常松法律事務所(2000年~2003年、2005年~2011年)、Debevoise & Plimpton (New York) 等での勤務を経て、2011年木村・多久島・山口法律事務所を開設。現在、上場企業の社外取締役、上場投資法人の監督役員等を務める。



**山本康正 グーグル株式会社
インダストリーマネージャー**

Googleにてインダストリーマネージャー。NYの金融機関を経てハーバード大学大学院修士課程修了。在学中にジュネーブの国連関連機関にてインターン。



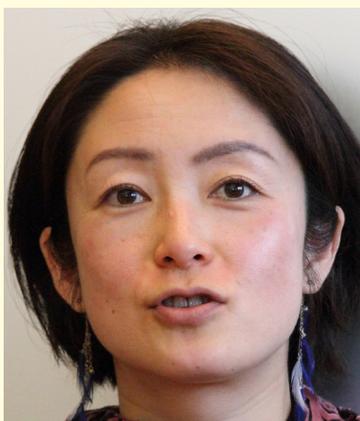
和田真一 日本銀行業務局企画役

はじめまして、和田真一と申します。ちなみに、阪神ファンなので、英語ではTigerというニックネームで通っています。私は、我が国の中央銀行である日本銀行において、物価の安定・金融システムの安定に貢献すべく、この12年間、様々な仕事に取り組んできました(うまくいかないことも多いですが)。その傍ら活動の幅を広げるために、高校以来の芝居に出演したり、クラシック音楽を習ったりもしています。よろしくお願ひします。

プログラムハイライト
「専門家インタビュー」

プログラム2日目には、参加学生たちが今回まとめる、「MDGs 達成目標年である2015年以降、世界の貧困問題を解決するために何を行うべきかのアクションプラン」の議論をする上で、各分野において実際に活動を行っている3名の専門家の方々から、お話をお聞きしました。人権問題に関しては、土井香苗・国際NGO「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」日本代表、医療問題については、スリングスピー B.T.・公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 CEO、教育分野においては、松田悠介・Teach For Japan CEOに参加していただき、各分野の現状や問題点などをお話いただきました。

テーマ1 人権



土井香苗
国際NGO「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」(HRW) 日本代表 弁護士

1998年東京大学法学部卒業。大学4年生の時、アフリカ・エリトリアにて1年間ボランティア。2000年弁護士登録。普段の業務の傍ら、日本の難民の法的支援や難民認定法改正に関わる。2006年にHRW ニューヨーク本部のフェロー、2008年9月から現職。紛争地や独裁国家の人権侵害を調査し知らせるとともに、日本を人権大国にするため活動を続ける。

“人権とは、人間が最低限の尊厳を持つことができるということ。教育を受けること、医療行為を受けることも人権に含まれます。人権問題は、人間が作り出した災いによって生まれます。例えば、女性が教育を受けることができないとか、何歳以上になったら結婚ができる、といったことも、それらの制度がないことやあることによって生まれました。これらの問題は、法律によってしか解決できないものがほとんどです。難民などに対してモノを支給するなどの緊急援助は絶対に必要な援助ですが、人権問題はそのような緊急援助では救えません。法律をつくったり、必要な法律に変えたりすることが、真の意味で人権問題を解決する方法だと思います。”



スリングスピー B.T.
公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 CEO

世界で初めて官民が連携し開発途上国の感染症に対する新薬創出を推進するために設立された、Global Health Innovative Technology Fund (GHIT Fund) のCEO 兼専務理事。同職就任前は、エーザイ株式会社でグローバルアクセス戦略室室長を担当し、新興成長市場と発展途上国の新薬創出のための研究開発を主導。ブラウン大学卒業後、ジョージ・ワシントン大学医学部、京都大学大学院医学研究科、東京大学大学院医学研究科にてそれぞれ修士・博号を取得。

専門家へのインタビューセッション



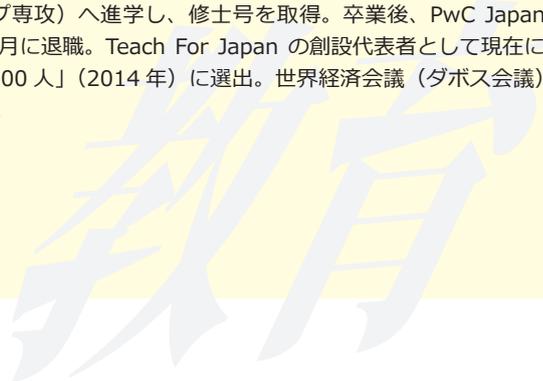
“日本にも教育の格差があることを知っていますか？子どもの貧困率は、アメリカが約 20 パーセントと言われていますが、日本も 17 パーセントという数字が出ています。6 人に 1 人の子どもが、貧困の問題を抱えていることとなります。恵まれた環境にいる人々には、その状況があまりにも知られていません。すぐ近くに、そういう問題があるということ、他人事ではないということを知って欲しいと思っています。そして、それをどう良くしていくのか？ということにも関心を持ってもらいたい。それを考えることが、社会、そして世界をより良くしていくこととなります。教育をすることによって、格差や貧困の問題は確実に解決します。しかし、時間がかかる。だからこそ、今、始めなければならないのです。”

テーマ3 教育



松田 悠介
Teach For Japan 創設者 / 代表理事 / CEO (最高経営責任者)

日本大学を卒業後、体育教師として中学校に勤務。体育を英語で教える Sports English のカリキュラムを立案。その後、千葉県市川市教育委員会 教育政策課分析官を経て、ハーバード教育大学院（教育リーダーシップ専攻）へ進学し、修士号を取得。卒業後、PwC Japan にて人材戦略に従事し、2010 年 7 月に退職。Teach For Japan の創設代表者として現在に至る。日経ビジネス「今年の主役 100 人」（2014 年）に選出。世界経済会議（ダボス会議）Global Shapers Community 選出。



テーマ2 医療



“貧困は、医療問題にも大きな影響を与えています。教育をして知識を身につけることが様々な病気などの予防になります。医療問題を解決するには、教育が重要なことは明確な事実です。しかし、教育を受けることができない人々が世界中にはたくさんいます。それらの人々には、教育のシステムをきちんとつくってから医療問題を解決する時間はありません。そこで、環境がとても大切になります。ただ、環境が整っていないことも多く、感染症などの医療問題が生まれます。貧困だから、人々が生活する自分たちの土地を所有できないことと大きく関係しています。貧困問題を解決するために働く、生活する場や働く場の環境が整わず病気になる、そしてまたお金が必要になる…悪循環が生まれています。それを正して、好循環に変えていくことが大切なことだと思います。”

提言作成

プログラムハイライト
「提言作成」

プログラム1日目のオープニングセッションから、2日目のインタビューセッションを経て、学生たちは、「世界の貧困のために、自分たちに出来ること」を考え、議論しました。各グループは、最終日の閉会式で発表するアクションプランをまとめました。メンターの方々の助言を得て、しっかりと方向性を決め、各メンバーが手応えを感じるアクションプラン作りが出来たグループ、また、白熱した議論が最後の最後に覆され、アクションプランをまとめたグループなどなど…会議室の中の熱気は、最高潮に達しました。



「ジェンダー差別」が、現在も山積する世界の貧困問題の根っこなのではないか？この問題を解決するにはどうすれば…

貧困って何？人権って何？MDGsって何？「知らない」ということを「知っている」にするために。



「児童労働」が無くなれば、世界の貧困問題は無くなるのでは？そのために、何をすればいいのか？

ヒトやモノといった、医療資源の不足が、貧困問題の大きな原因の一つなのでは？それを解決するには…



栄養不足を解決することによって、貧困問題は解決するのではないか？食事の大切さ、楽しさを知ってもらう！

環境と感染症の関係を考えよう。感染症の知識を正しく知ってもらうには、どうすればいい？感染症の予防にはまず、知識が大切だと思う！



子どもの貧困率はアメリカや日本でも大きな問題である。まず、身近なところから活動しよう！子どもたちに平等にチャンスをも！

アメリカでも貧困問題を实际見た。すべての問題の根本は、「教育」！教育システムを充実させることによって、様々な貧困問題は解決するのでは？



発展途上国で、子どもたちが教育を受ける機会を得るにはどうしたらいい？その社会全体の意識改革を！



リフレクション

プログラムハイライト 「リフレクション ～ビヨントゥモローナイト」

プログラム最終日を控えた2日目の夜、学生代表たちによるセッション「リフレクション～ビヨントゥモローナイト」が開催されました。東日本大震災の体験、そしてこれまでの日々。人に言えなかった想いを打ち明け、未来への夢と希望を分かち、共に未来を築く仲間として手を取りあい、信頼を築く時間となりました。



私は今ここに居る人たちに伝えたい。自分の体験や辛かったことを話すのは辛く、苦しいことだと思います。私自身そうでした。でも私は自らの体験を話して変わることができました。泣くことしかできなくて毎日が苦しかった日々から前に進もうと思うことができました。皆はひとりではありません。回りにはあなたを支えてくれる人がたくさんいます。そして今この場で共に前に進もうとする仲間がいます。この場が誰かの前に進む一歩になったらいいなと思います。

佐藤 迅

(ビヨントゥモロー / TOMODACHI 特別奨学生)
東京法律専門学校仙台校法律ビジネス学科
(宮城県農業高等学校卒業)

津波で母を亡くし、自宅も流失。その悲しさ、悔しさから、震災後、自暴自棄になった時期もあったが、ビヨントゥモローの活動に参加し、初めて被災体験を話したのをきっかけに、「自分にも何かできるんじゃないか」と思うようになった。先輩たちが復興や故郷の事を話しているのを聞き、地域行政に関わりたいと考えるようになり、就職ではなく進学を決意。将来は、地域行政に関わり、地域の子供たちが夢に向かって努力できる環境を作る仕事をしたいと考えている。



福田 菜

(ビヨントゥモロー / TOMODACHI 特別奨学生)
岩手大学工学部進学予定
(宮城県多賀城高等学校卒業)

震災後、震災体験を話すことがありましたが、祖母の死については話すことができませんでした。でも、ビヨントゥモローでならみんなが受け入れてくれる、そう思い祖母の死について後悔していることを話しました。みんなはきちんと受け入れてくれました。話して変わったことは、前よりも人を頼れるようになったことです。今でも話すことは怖いですが、それが私にとって1歩進むことになると感じるようになりました。私にも受け入れてくれる人がいました。泣いてくれる人がいました。

東日本大震災の教訓となればと、震災時、車の上で救助を待った体験を話してきたが、救助された後、共に避難した祖母を置いてきてしまい、祖母を亡くしたことについて話せず、後悔する日々が2年以上続いた。ビヨントゥモローの活動に参加し体験共有の時間に初めてその被災体験を語ると、もっと辛い体験をした仲間たちが自分の話を受け止めてくれた。震災は自分に命や家族の大切さを教えてくれたと考えるようになり、将来は国土交通省で、災害に強いまちづくりに携わることを目指している。



黒澤 永

(ビヨントゥモロー / 船橋特別奨学生)
獨協大学 外国語学部
(福島県立会津高等学校卒業)

周りとの差を感じて自分の発言が上手くできない人に伝えたい。自分にできること、自分にしかできないことが絶対にあるはず。そしてそれを受け取ってくれる相手もいるはず。僕は、僕のような被災の度合いが小さかった人の存在も、すごく大切なものだと思います。

震災後、自身が通う高校が避難所となり、食糧分配や避難者のケアの活動に参加。食料や生活物資の分配に混乱が起きているのを目撃し、同様のことが世界の貧しい国でも起きているのでは、と考えるようになる。将来、国連職員となり、貧困地域の専門家として食糧分システム構築に尽力するのが夢。大学では、貧困問題や格差について研究するのが目標。2014年に、ビヨントゥモロー夏季グローバル研修でフィリピンを訪問した際は、得意の英語を活かし、通訳としても活躍。

ビヨントゥモローナイトに参加して



震災で家が全壊したが、誰かを失った人に比べればそんなことは小さいことだと思った。ずっとバレエをしていて、「海辺の町」というオペラの練習をしていた。出演者にも亡くなった方がいて、そんな題のダンスをしているののか、と問われたことがある。すごく悩んだ。でも自分は生かされている。生きていることに感謝して舞台に立つ。

- 尾形 咲季 (宮城県仙台第二高等学校)



直接被災はしていないが TV で見るだけでなく実際の声を聴かなくてはいけないと思い参加した。被災していない自分にはできないことは、聞き手になってつらい思いをした人の痛みを減らすことだと思う。行方不明の友達がいるが、まだどこかで生きてると信じている。

- 松崎 巧 (宮城県仙台第三高等学校)



人の命は多いから重いのではない。一人失った時点で、「一人も」なのだ。行動に移すことは難しいかも知れないが、私の歩みはこれからも止めたくはない。自分の手で世界を変える。

- 佐々木 真琴 (岩手県立宮古高等学校)

プログラムハイライト
「閉会式／提言発表会」

東日本大震災から4年が経ちました。参加学生同士、あの日の出来事について、プログラム中、そして震災後に渡米したという共通の体験をベースに、「世界の貧困問題のために、自分たち名だからこそ考えることのできたアクションプランが、最終日の閉会式／提言発表会で発表さメディア、市民団体など、様々な領域を代表するゲストたちが耳を傾けました。

スペシャル・メッセージ



ジェイソン・P・ハイランド 在日米国大使館首席公使

“皆さんはこの数日間で貧困についてさまざまな議論を重ねたと伺いました。みなさんがこの問題と向き合える、教養、解決策について考えることは大変意義のあることです。TOMODACHI プログラムに参加の経験がきっかけとなり、地域の活動に参加しながら、さまざまなグローバル規模の課題を考える、議論し続けることを願っています。そして、その意識、行動がみなさんの故郷である東北地方に、ひいては世界に輝く未来をもたらすことを心から祈っています。皆さんの可能性は無限大です。”



**ティモシー・W・ラティモア バンク・オブ・アメリカ・グループ 在日代表
メリルリンチ日本証券株式会社 代表取締役社長**

“この二日間、人権・医療・教育というテーマで日本から世界に貢献できること、発信できることについてディスカッションを重ね、プレゼンテーションづくりに取り組んだと聞いてます。若い時に海外で学んだことをぜひ今後に生かしてほしいと思います。震災から4年が経ちますが、復興への道のりはまだまだ険しく、震災の記憶や復興への想いの風化が心配されています。ありのままに皆さんの純粋でひたむきな気持ちを持ち続け、心が折れた時もしなやかに乗り越えていただきたいと思います。”



**ローラ・ウインスロップ・アボット TOMODACHI イニシアチブ 事務局長
公益財団法人米日カウンシル**

“皆さんは今までたくさんの YES に挑戦してきました。TOMODACHI プログラムに参加したことも一つの YES です。皆さんが YES というだけで新しいチャンスがうまれます。そのチャンスが皆さんをどこに連れていくのかは未知の世界です。皆さんがぜひこの YES を続けてくれることを願っています。みなさんはいろんなことに可能性を持っています。そして YES を言うたびにいろんな可能性が広がるでしょう。東北と TOMODACHI 世代の輝かしい未来と YES の力に乾杯。”



**山崎直子 宇宙飛行士
一般財団法人教育支援グローバル基金 評議員**

“世の中には、さまざまな問題や課題がありますが、教科書の何ページを見てくださいということが言えない、答えがない問題が多いと思います。大人の私たちも毎日迷いながら考えています。だから、今の世の中で足りないこと、自分はこう思うということ、こうしたら良いのではないかと一緒に考えて、共に成長して、共に学んでいける人になっていって欲しいと思っています。”

提言発表

語り合う機会がありました。4年の月日を経て、ようやく話すことができたこと、まだ心の整理がつかない記憶。それぞれが今の気持ちをぶつけあい、「にできること」を真剣に議論しました。震災を通して、社会を変革する当事者として自分たちに何ができるかを考えることの大切さを知った70人でした。ミレニアム開発目標の達成目標とされた2015年を迎え、今後何をすべきかを見据えた学生たちの発表に、日米両政府、企業、学界、

提言発表

9つのチームがそれぞれに、2泊3日の集大成として作成したアクションプランを発表し、ゲストの方々投票していただきました。

アクションプランに盛り込む内容

1. 何が問題なのか。
(例：国連ミレニアム開発目標達成目標年である現在においても、●●という問題が存在している)
2. 今後の世界をより良い場にするための改善策のあり方。
(●●をすることができるならば、この問題は、このように改善します)
3. 若い世代である自分たちに、具体的に何ができるのか。
ミレニアム開発目標 (MDGs) の次の開発目標「MDGs 2030」とも言える、新しい開発目標に向けて、●●というアクションプランを提言します。

各チームの発表



**プログラムハイライト
「閉会式／提言発表会」**

すべてのチームの発表が終わり、ゲストの方々の投票により、最優秀チームが決まりました。審査の基準は、

- + 想像した 2030 年が最も魅力的に思えたプラン？
- + 実際に社会が変わるのではないか、と最も可能性を感じたプランは？

結果発表

9つのチームがそれぞれに、2泊3日の集大成として作成したアクションプランを発表し、ゲストの方々に投票していただきました。最優秀チームには、教育をテーマにアクションプランを作成したチーム8が選ばれました。チーム8は、教育を鉢植えの土に例え、その大切さを指摘した上で、「EDPOWER」というサイトを立ち上げて、教育を受ける側の要望を反映する、というアクションプランを発表しました。作成されたアクションプランは、提言として、外務省国際協力局審議官に手渡されました。



講評



豊田欣吾 外務省国際協力局審議官

“今回の皆さんのプレゼンテーションをお聞きして、若い人たちが世界とのつながりを日常的に考えていると感じることができました。しかも、ただ考えているわけではなく、解決策を考えている。さらには、2030年に向けてどういうアジェンダが必要になってくるのか。そういうことを考えていただいたことに、非常に大きな感銘を受けています。みなさんのプレゼンテーションはどれも素晴らしいものでした。しかも、それぞれ、非常に中身が濃くて、元気強くて、逆に私は勇気づけられました。こういう若い皆さんが、これからの社会を築いていけるのだらうなと思います。”

学生への激励メッセージ

**デーブ・スペクター (株)スペクター・コミュニケーションズ代表取締役
放送プロデューサー**

“東日本大震災が発生して4年目になります。様々な問題が、未だ山積しています。しかし、何もかもすべてネガティブに取ってしまっはいけない。この震災は、若い皆さん、或いはそうでない人たちにとっても、再出発という起爆剤になったのです。ですから、このチャンスをつかんで、逃さないことです。大切な方が今、天国で見守っていると思います。みんな期待されています。どうぞ皆さん、頑張ってください。”



**プログラムハイライト
「閉会式／提言発表会」**

学生代表スピーチ

「ビヨンドのみんな。海岸部のみんなは、ともにつらい経験を共有し、共に涙を流したね。内陸部のみんな。深い 悲しみを抱えた私たちにどうかかわるべきか、悩み、考えてくれて本当に感謝しています」

阿部 成子
(宮城県佐沼高等学校 3年)



宮城県南三陸町出身の、阿部成子です。

私は 4 年前の 3 月 11 日、南三陸町にある戸倉中学校の 2 年生でした。生徒が少なく、2 階建ての小さな校舎は木造独特の温かみのある色合いと香りに包まれた、青い海が見える美しい校舎でした。

あの日、帰りのホームルームをしている最中に大きな揺れが起こりました。校庭に出ると、海拔 20m の高台に建つ中学校の校庭には、多くの住人が避難してきました。雪が散らつき、とても寒い日でした。

「山さ逃げろー！急げー！」という声がかえ、茶色い濁流が押しよせてきました。赤土の急斜面をずるずると滑りながら、爪に土が入ろうと誰かに手を踏まれようと、がむしゃらに登りました。すぐ下はもう海です。振り返ることはできませんでした。

そして崖の下はまさに地獄であり、上は命の現場でした。避難して車で待機していた人、住人を誘導していた先生方、そして友達も何人か見当たらず、頭が真っ白になりました。

震災の翌日、校舎に戻って夜を明かしました。時が経つにつれて周りの友達は家族や親戚と再会を果たし、離れていきます。その間クラスの中で私だけ、家族の安否がわかりませんでした。

今私が息をしている間にも、家族の身体は動けない状態でどんどん冷たくなっているのだろうかそれとも何事もなく生きているのだろうかという頭がおかしくなるような不安と恐怖は体験しなければ絶対にわかりません。

3 日目に、母が迎えに来た時は、胸が張り裂ける思いでした。強く抱きしめ、一呼吸置いて「パパは？」と尋ねると、母は無言で首を横に振りました。祖母は耳が遠く、いつも父と一緒にだったので、父の死は 祖母の死をも意味していました。

震災から 2 週間、親戚の家に身を寄せ、毎日何もやる気が出ず、ただテレビを眺めていました。そんな時、ケニアの子供達が、東北のために作った歌を全員で泣きながら歌っている映像を観ました。日本から遠く離れ、日本がどこにあるのか、どんな国なのかもわからないかもしれない子供達が私達被災者と同じように大粒の涙を流して悲しむ姿を見て、一人で悲しみを胸の内に秘め、自分だけが悲しいかのような気持ちになっていたことを恥ずかしく感じました。

私はそれまでケニアの子供達のことを考えたことはありませんでした。でも彼らは、同じ人間として、全ての日本人も仲間という実に純粋で美しい心をもっているのだと感じました。私はこの映像をきっかけに、すぐに大きなことはできなくてもとにかく今は前進しようと思えるようになりました。

それから数日、父が見つかったという連絡が入りました。安置場所に行くところには父でないような表情のない父がいました。私の思い出の中の父はいつも笑顔で、私が、親不孝な態度をとっても、普通の親なら怒るであろう私の言動を叱るどころか、いつも笑顔で応えます。そんな父の無条件の愛を、失ってから気づき、そんな私を許してほしいと、動かぬ父を前に何度も謝罪と感謝の言葉を重ねました。いつも目立たぬ父でしたが、誰にも嫌われない父で、お葬式では多くの方が涙を流し、「ありがとう」と父に伝えていました。そんな光景を見て、私の中で父という存在は、誇りに

変わりました。

震災後、多くのプロジェクトの選考に合格し、貴重な体験がたくさんできているのは、多くの方々の善意と協力が第一ですが、私は父が今でも私を思い、助けてくれているように思えて仕方がないのです。正直、最初の渡米も、最初は不安しかなく、あまり乗り気ではありませんでした。アメリカでの多くの体験は全てが新しく、輝いていて、仲間たちと協力し、楽しみながら、アメリカを全身で感じてきました。

ホームステイで、いざ日本語が通じない環境に置かれると、驚くほど積極的にホストファミリーとコミュニケーションをとることができました。そして震災のショックと喪失感で忘れていた「英語が好きだ」という気持ちを思い出させてくれました。自分の将来を日本という国に限定して考える必要はないのかもしれないと、私の可能性が広がった瞬間でした。

そして、アメリカの人たちが、日本を心配し、もっと知りたいという好奇心にあふれて震災の話をきいてくれたのも、うれしいことでした。日本人は私の震災の話を聞くと申し訳なさそうな顔をして謝り、それ以上話を続けられないように話題を切り替えます。しかし当時の私には「誰かにこの悲しみをわかってほしい」とか「体験を共有したい」という気持ちがあったのだと思います。「話してくれてありがとう」と言って抱きしめてもらい、「私はずっとこうして話を聞いてもらい、誰かに認めてもらいたかったのだ」と実感した瞬間でした。

帰国後、私は外へ発信することに楽しさや充実感を覚えるようになりました。3 年前に初めてグローバルリーダーシップアカデミーに参加しました。最初は、そこで繰り広げられる話し合いは目眩がしそうなほど、高校生とは思えない発信力と主張によって進められ、話についていくのが精一杯でしたが、2 回目、3 回目と回を重ねるごとに、壁を作らず、積極的に溶け込もうとし、色々な事に挑戦するようになっています。その度に素晴らしい出会いと発見があり、新しい自分を構成している過程を実感できるのでとても楽しいです。

私の将来の夢は入国管理局で働くことです。大学では英語、中国語、韓国語を完璧に習得し、留学や、被災地のための活動を企画して実施したいです。そして人とうまくコミュニケーションをとり、自分の意見を怯まずしっかり主張できるようになりたいです。

震災の日、全てが終わったと思いました。しかし、震災が新たなスタート地点に変わりました。あの日、人生最大の悲しみを体験して、ビヨントゥモローに出会わなかったら私は今でも井の中の蛙でした。今はすごく大きな「世界」という海にもう少しで出られるというような感覚でわくわくしています。だから、これからもこのようなチャンスを生かし、たくさんのお会いを経験して国際社会に貢献できる人間になりたいです。

最後に、ビヨンドのみんな。海岸部のみんなは、共につらい経験を共有し、共に涙を流したね。内陸部のみんな。深い悲しみを抱えた私たちにどうかかわるべきか、悩み、考えてくれて本当に感謝しています。これからもよろしくお祈りします。

ありがとうございました。

プログラムハイライト
「クロージング
セッション」



プログラムの最後、バンクオブアメリカ・メリルリンチの在日代表と社員の方々とのパネルディスカッションが開催されました。「将来の職業について」、「リーダーにとって必要なこと」、など参加学生たちの熱い質問に、パネラーの方々が真摯に応えて下さり、2泊3日のプログラムが幕を閉じました。



ティモシー・W・ラティモア
バンク・オブ・アメリカ・グループ 在日代表
メリルリンチ日本証券株式会社 代表取締役社長

Q: 仕事をする上で、一番大切にしていることはなんですか？仕事の流儀を教えてください。

林: あきらめないこと。仕事で勝ったり負けたりを繰り返しながら、ネバーギブアップと思い、仕事をしています。

ラティモア: 楽観的に物事の観ることが大事だと思います。様々な問題を解決する時に、後ろ向きに考えるよりも前向きに考える方がいい結果につながるからです。

内山: 私が一番大事にしていることは、信頼ということです。一人で完結するという仕事はありません。対内的にも、対外的にも、信頼関係を築いて仕事することが大事だと思っています。

Q: 英語の先生になるために必要なことは何だと思いますか？

ラティモア: 辛抱強さが必要だと思います。子どもは少しずつ学び、育っていくものです。そこで、我慢して育てていくことが大切だと思います。

林: 英語を学ぶことは、世界が広がることだと思います。英語を習得することは、世界に近づく一歩なのだとことを、教えてあげることが大切だと思います。

内山: 英語を学習するのは、コミュニケーションを取るためです。相手に自分の思っていることを伝えようとする姿勢、或いは相手のことを知ろうとする姿勢、そういうものの大切さを伝えてほしいと思います。



林 礼子
メリルリンチ日本証券株式会社
資本市場部長 マネージング ディレクター



内山 裕之
メリルリンチ日本証券株式会社
債券本部 債券営業部 マネージング ディレクター

Q: リーダーの資質、素質とは何だと思いますか？

内山: リーダーには色々なタイプがあると思います。しかし、どんなタイプのリーダーにも必要なのは、チームのメンバー、一人一人の意見を聞くということだと思います。

林: 私自身もリーダーとは何か、を日々模索しています。一人一人の意見を尊重することは勿論大切ですが、一方で、自分の方向性を持っていることも大事なことです。

ラティモア: チームやグループが、どう有りたいのか、を設定すること。そして、そこに向かってどうやって行くのかを考え、メンバーとコミュニケーションできることが大切です。もう一つは、自ら正しく、誠実に行動できることが大事だと思います。

メンター紹介

本プログラムの支援企業であるバンクオブアメリカ・メリルリンチの社員の方々に加え、様々な領域で活躍している社会人の方々に、ボランティアとして各チームに参加していただきました。プレゼンテーションの準備や、社会人としてのキャリア形成など、様々な面で学生たちにアドバイスをいただきました。また、一日目には、初めて、バンクオブアメリカ・メリルリンチの English Speaker の社員の方々と、英語による「コミュニケーション・ワークショップ」が行われました。



昨年に続きメンターとして2回目の参加でした。1班は、人権という視点から世界の貧困問題解決に向け、皆が積極的に意見を出し合いました。壮大で難解なテーマでしたが、ギリギリまで妥協せず、締切り3秒前に最終フォーマットにまとめあげたその瞬発力に驚きました。TOMODACHIの皆さんがこれからも前に向かって逞しく歩いていくその背中に精一杯のエールを送りたいと思います。

- 伏見 康代 (メリルリンチ日本証券株式会社 / 人事部)

短時日の間にこれだけの信頼関係が築けるエネルギーと前向きな姿勢に感動しました。お互いがしっかりと意見を伝え、相手の言葉にも耳を傾け、苦労しながらもひとつの成果を生み出したこの仲間が、これからもきっと支えになる筈です。微力ながらその一角に参加できたことを嬉しく思います。学生の皆さん、この事業に携わった方々、ありがとうございました。

- 伊藤 守康 (明治神宮国際神道文化研究所)



2日間に渡り、一緒にディスカッションに参加させてもらいましたが、真剣に議論し、プレゼンテーションに向けて短い時間の中、精一杯アイデアを出し、形にしていく様に感動しました。アメリカ渡航の経験をいい思い出に終わらせず、アルムナイ(修了生)として、アメリカでの経験をシェアし、ネットワークを強める活動に参加することが出来て、自分にとっても大きな刺激のある2日間になりました。またみなさんにお会いできる機会を楽しみにしています!

- 宮崎 潤 (バンク・オブ・アメリカ・エヌ・エイ東京支店 / 外国為替本部)



昨年に引続き2回目の参加でした。今年のグループは難しい課題を前に多くの壁にぶつかったようでした。グループ内の意見がまとまらない、時間内に結論を出さなければならないプレッシャーと焦り、小さな衝突。どう導いていけるか私たちメンターも試行錯誤をした濃いワークショップでした。チームが重い気持ちのまま真剣に意見を交わし、感情的になりながらも最終的には短い時間の中で折り合いをつけ、またチームが納得いく結論とプレゼンまで成し遂げたことには正直驚きました。困難にぶつかったからこそ得られた気づきが多かったと感じていたことも後日知り、2日間のワークショップを通して学んだことはこれからも彼らの力になっていくのだと思いました。

- 小室 聖子 (メリルリンチ日本証券株式会社 / 人事部)



2回目の参加となりましたが、皆さんのパワーもクリエイティビティも進化していて、大変刺激を受けました。発表には一緒に声を出したり、アクションをする機会をくれたチーム3のみなさんありがとう! ついつい、熱くなって、順位発表もみなさん以上に(?) ドキドキしながら聞いてしまいました。チームで議論しながら、世の中の課題をグローバルアジェンダとしてとらえることで、物事の本質をつかむ力をつけることはみなさんがどんな分野のリーダーになっても役に立つことだと思います。ぜひこの経験を、さまざまなチャレンジでいかしてほしいと思います。

- 新井 玄 (メリルリンチ日本証券株式会社 / 投資銀行部門投資銀行部)



夢と希望と将来ある若い世代に、このように志のたかい方々がいらっしやることを肌で感じ、感動を覚えるとともに、二日間という貴重な時間を一緒にすごせる機会を得られたことを光栄に思います。震災後の想像を絶する困難と思いを越えて、おひとりおひとりが国際社会にリーダーとして羽ばたいてくださることを心より願っております。” If you can dream it, you can do it.”

- 江川 裕利 (メリルリンチ日本証券株式会社 / 法務部)



3回目の参加になりました。グローバルアジェンダについて真剣に議論を交わしている皆さんを拝見しながら、支援を受ける立場から、自らの足で立ち、そして、世界の課題を変えていくリーダーになる力を付けつつあることを実感した3日間でした。世界の課題は簡単に変えられるものではないけれど、変えようとしなければ前に進みません。一緒に前に進みましょう。

- 林 礼子 (メリルリンチ日本証券株式会社 / 資本市場本部)

被災3県からの参加ということもあってか、建築士だったり、栄養士だったり、英語教師であったりと、自らのミッションを明確に定めている高校生が多く見受けられた。そうした生徒たちが、高校生には難しいテーマに真っ向から立ち向かい、何かを必死に得ようとしている姿が印象的で、こうした若者が将来グローバルに活躍し、よりよき世界を創造していってくれるであろうことに確信を得ました。

- 荒牧 国晴 (株式会社 igsZ / 新規事業開発部)

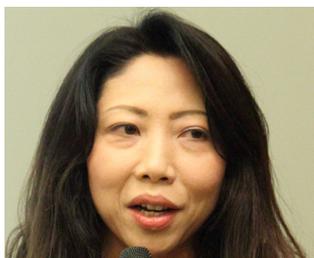


難しい課題にチーム一丸となって懸命に取り組む学生達の姿にはいつも心を動かされます。辛い経験や悲しい悔しい思いをバネに大きく前進している学生達の底力は、日本だけでなく世界を変える希望の光です。世界中で困難に立ち向かう全ての人たちにとって指針となれるよう、この先も活躍の場をどんどん増やしていってもらえればと思っています。5班の皆様本当にどうもありがとう。

- 住谷 衣美 (メリルリンチ日本証券株式会社 / 投資銀行部門投資銀行部)

アメリカに派遣された経験からか、好奇心に満ちた状態の人が多かった印象があります。ディスカッションの議題の貧困問題についても、開発途上国に渡航したことが無いにも関わらず、想像力を働かせて活発に議論していました。その好奇心を保ち続けられる進路を取れることを願っています。関係者の皆様、素晴らしい機会を有難うございました。

- 山本 康正 (Google 株式会社 LCS)



今回初めて参加させて頂きました。被災という辛い経験をしながらも、自分のため、地域のため、そして世界のために自分たちに何が出来るのか、どのように貢献できるのかと真剣に考え、真摯に取り組んでいる彼らの姿に感銘を受けました。このような素晴らしいプロジェクトに参加することができ、心から感謝しております。ありがとうございました。

- 澤田 香織 (メリルリンチ日本証券株式会社 / 証券業務部)

「コミュニケーション・
ワークショップ」
イングリッシュ・メンター
の方々



- バリー・ラッセル



- ピーター・チン



- アロン・クーガン



- ジェフリー・ポーマン



震災、復興、留学、ボランティア、学業など多くの事を経験しながら将来何をやりたいか、そして何が成し遂げられるのかと模索し希望に溢れる学生さんを見て頼もしく感じられました。このような可能性溢れる人たちに一人でも私のアドバイスや経験が役に立ち、参考に出来る可能性があれば、今後も是非、このような活動に積極的に参加したいと思います。皆さんも色々な事にチャレンジしてみて、自分のベストが引き出せて、「得意」とする将来への道を見いだせるプロセスを楽しみながら頑張ってください。-杉山 亜希子 (株) KAJIMOTO / 制作部 スペシャル・プロジェクト

一昨年参加したときと同様、想像もできない程の辛い経験をしたはずの学生たちが見せてくれた前向きな姿勢、行動力そして自信が頼もしく感じられました。寝る時間を削ってまでプレゼンテーションを仕上げ、練習を重ねたと聞いて感動しました。弊社の企業理念の一つである「Trust the Team」の大切さを再認識させてもらったような気がします。日本の未来はきっと明るいと思いました。ありがとうございました。

- ジェームス・セドン (メリルリンチ日本証券株式会社 / 広報部)



2013年から3年連続で参加させていただきました。自分の高校生生活を思い起こすと、これほどの高い意識は持ち合わせていませんでした。この調子で貪欲にかつしなやかに 様々な事を学び、是非世界に羽ばたき日本を引っ張る人材に育てて欲しいと思います！

- 篠崎 祐一郎 (メリルリンチ日本証券株式会社 / 金融商品開発部・株式戦略営業部)

To the students: Although the March 11th Disasters brought much sadness, it also became a catalyst for so many amazing opportunities through the various collaborations of many amazing individuals. I am so glad that you have challenged yourself to take up these opportunities, and so proud of each and every one of you who has turned this sadness around into something amazing. We are all so happy to have you as part of the TOMODACHI Generation.

- 宇多田 カオル (公益財団法人米日カウンシルージャパン
TOMODACHI イニシアチブ / プログラムマネージャー)



学生の皆さんの高い志や議論に対する積極的な姿勢に感銘を受けました。難しい課題に一生懸命に取り組み、出会ったばかりのチームメイトとも臆することなく議論を交わす姿はとても頼もしく、私自身も彼らのそうした姿勢から多くを学びました。今後も今回のプロジェクトで感じたことやネットワークを大事にしながら、夢や目標を追いかけ続けて欲しいと思います。貴重な機会をありがとうございました。

- 岩井 崇 (メリルリンチ日本証券株式会社 / 調査部)

3回目の参加です。以前参加されてた学生さんたちに再会でき、高校生として参加してた 学生さんが大学生リーダーになって戻ってきて現高校生をリードする姿を見てうれしく思いました。私自身どの程度役に立ってたのか分かりませんがチームの一員として受け入れてもらったのはとてもうれしかったです。将来こういう事がしたいって話すキラキラした姿に頑張れ！と思うと同時に私も頑張ろうと思いました。素敵な機会をどうもありがとうございました。

- 倉智 啓子 (メリルリンチ日本証券株式会社 / 金融商品開発部)



- キムマン・リー



- プシュカ・ラジカルニカ



- イウノウ・ステッフ



- ジョセフ・ハーバート



- ローラ・ウィンスロップ・アボット

学生の声

3日間のプログラムを終え、参加学生たちは、様々なことを学びました。アクションプランの作成を中心に、いろいろな分野でリーダーとして活躍する先輩方と話し、多くの刺激を受けました。また、東日本大震災という大きな体験を共有し、それぞれの胸に残る夜も過ごしました。この3日間は、確かに、彼ら、彼女らの今後の大きな糧となると確信しています。

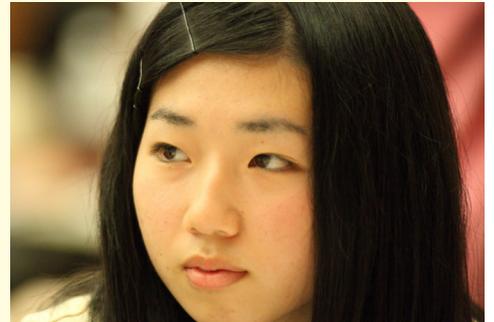
- 澤田 万尋 (宮城県仙台第二高等学校)



リーダーにはいろいろな形があって良いのだ、ということを確認できたことが一番大きかった。リーダーと聞くとどうしても国のトップや会社の社長のような

人たちを思い浮かべてしまうが、3日間を通してその認識を根本的に変えることができた。

- 高橋 葵 (福島県立いわき光洋高等学校)



プレゼンテーションは、直前まで直して練習してという、ギリギリまで全員がより良いものを作ろうという意識があって、全員が同じ方向を向いていたからこそ、良いものが仕上がったのだと思う。優勝という結果では終われなかったが、結果が全てではなく過程が大切なのだと思う。

たくさんの方々に支えられながらも学生である私たちにできることはたくさんあると感じました。ディスカッションやさまざまな発表



の場を通して自ら何かを発信していくという機会が多くあって、これからは自分の意見もちろん、他の人の意見や考え、活動も発信できるようにしたいと今は強く思っています。

- 渡辺 千夏 (宮城県宮城第一高等学校)

アクションプランの発表で、最優秀賞をとれたことは、自分にとって誇りです。4年という月日が経って、震災が風化しているのを実感している中で、震災から得た教訓が忘れ去られないように伝え続けていきたいと思っています。



- 堀合 大樹 (岩手県立山田高等学校)



協力団体

TOMODACHIビヨントゥモロー グローバル・リーダーシップ・アカデミー2015は、バンクオブアメリカ・メリルリンチのご支援によって、運営されています。ビヨントゥモローの事業は、多くの方々からのご支援によって支えられています。皆様のご支援・ご協力に、感謝申し上げます。



ビヨントゥモロー ストラテジック・パートナー

ビヨントゥモローの活動に100万円相当以上のご寄付をいただいた企業・団体

ジャパン・ソサエティー
武田薬品工業株式会社
バンクオブアメリカ・メリルリンチ
米日カウンシル
米日財団
三菱重工業株式会社

夏季グローバル研修特別パートナー

ビヨントゥモロー-夏季グローバル研修2014開催に際してご協力をいただきました

エアバス
国際交流基金マニラ日本文化センター

ビヨントゥモロー プロジェクト・パートナー

ビヨントゥモローの活動に100万円相当以上のご寄付をいただいた企業・団体

株式会社アルピオン
ap bank Fund for Japan
キックマン株式会社
KPMG ジャパン
一般財団法人 国際ビジネス コミュニケーション協会
サルサンバ会
質屋エイト会 = 埼玉 =
住友化学株式会社
日本GE株式会社 GEキャピタル
プロジェクトホープ
ペンシルバニア大学 ウォートンスクール
株式会社ポイント
ロート製薬株式会社

その他ご寄付をいただいた皆さま

ビヨントゥモローの活動に10万円以上100万円未満のご寄付をいただいた皆さま

ANA NY シニア会
大木実記念-竹の子大会
グリフィス・クラーク (GE Capital) 様
Japanese American Association
茅野みつるチャリティーコンサート
一橋大学大学院国際企業戦略研究科
(一橋ICS) Class of 2012 一同
堀内 秀晃 様

ビヨントゥモロー スカラーシップ・パートナー

奨学生枠の提供をいただいた教育機関・教育団体

Leelanau School (米国・ミシガン州)	St. Timothy's School (米国・メリーランド州)
St. George's School (スイス・ヴォー州)	Leysin American School (スイス・ヴォー州)

ビヨントゥモロー プロボノ・パートナー

ビヨントゥモローの活動に商品・サービスの形でご寄付・ご協力をいただいた企業・団体

株式会社アゴス・ジャパン
有限責任 あずさ監査法人
株式会社 海外教育コンサルタンツ
株式会社ガリバーインターナショナル
キンコース・ジャパン株式会社
コニカミノルタ株式会社

ビヨントゥモロー スカラーシップ・パトロン

ビヨントゥモロー・スカラーシップ・プログラムに奨学金枠をご寄付いただいた個人の方々

大塚 太郎 様	小林 正忠 様
佐藤 輝英 様	船橋 力 様
本庄 竜介 様	松古 樹美 様
松本 大 様	茂木 友三郎 様
ロバート・	
アラン・フェルドマン 様	

ビヨントゥモロー・マネジメント・パートナー

ビヨントゥモローの組織運営に関わる人材を、長期的に派遣していただいている企業・団体

ロート製薬株式会社

この他にも、多くの方々にご支援・ご協力をいただいております。深く御礼申し上げます。

ビヨントゥモローとは

概要

教育支援グローバル基金は、政治・行政・企業・NGO・メディアなど多方面にて活躍するリーダーたちにより設立された財団法人です。「ビヨントゥモロー」は、東日本大震災で被災した若者がグローバルに活躍するリーダーへと成長することを支援することを目的とした事業として、包括的なリーダーシップ支援事業を実施しています。2011年から3年間「東北未来リーダーズサミット」を、2013年及び2014年には「ビヨントゥモロー夏季グローバル研修」を開催、被災地からリーダー候補を輩出するための取り組みを行っています。また、奨学金提供及びリーダーシップ教育を提供する「ビヨントゥモロー・大学スカラーシップ・プログラム」「東北未来フェローズ・プログラム 2013/2014」「ビヨントゥモロー高校留学プログラム」を運営しています。

内容

★ 奨学金プログラム

東日本大震災という困難を経験した若者こそ、今後、世界や日本、そして東北復興のために行動するリーダーになる資質を有していると信じ、進学のための奨学金（返済不要）を給付しています。

- ・ 大学スカラーシップ・プログラム
- ・ 東北未来フェローズ・プログラム2013/2014
- ・ 高校留学プログラム

★ リーダーシップ・プログラム

東北被災地からリーダーとしての活躍を志す学生たちの視野を広げ、人間的成長を促すリーダーシップ育成プログラムを開催しています。その領域は、世界・日本・地域へと広がり、広い視野と強い共感力をもって社会革新の原動力となる人材の輩出を目的としています。



一般財団法人 教育支援グローバル基金
<http://www.beyond-tomorrow.org>

〒150-0041
東京都渋谷区神南 1-5-7
APPLE OHMI ビル ETIC. 内
info@beyond-tomorrow.org

© 一般財団法人 教育支援グローバル基金

v5 A15/27P